

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

代表者名

中根善明

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 5年 1月 30日提出

活動年月日	令和 4 年 10 月 12 日 (水) ~ 10 月 13 日 (木)		
氏名	中根善明		
用務先 及び 内 容	1 10月12日	用務先	神奈川県 小田原市
		内 容	耕作放棄地の保全・再生及びソーラーシェアリングについて
	2 10月12日	用務先	神奈川県 座間市
		内 容	生活困窮者支援の取組について
	3 10月13日	用務先	東京都 東村山市
		内 容	議会報告会について
	4 月 日	用務先	
		内 容	
備 考			



政務活動調査報告書

調査日	2022 年 10 月 12 日（水）
場所	1 日目 《合同会社小田原かなごてファーム視察》 AM 10:15～11:45 担当：代表 小山田 様
内容	耕作放棄地の保全・再生及びソーラーシェアリングについて

1 日目 神奈川県 小田原

【視察①】 10:15～11:45
ソーラーシェアリングの現地視察と
ソーラー発電でまかなっているカフェの視察

【講師】
かなごてファーム代表 小山田様



【概要】

ソーラー発電をしながら野菜や米を栽培していました。また、その畑や水田で収穫した野菜をカフェ「シエスタ」で提供している。また、カフェ「シエスタ」ではソーラーシェアリングで発電した電気を利用する予定（視察当時）とのことでした。また、カフェで作ったお弁当を配達しているそうで、その配達に利用している車が電気自動車を利用しておりました。車に利用する電気もソーラーシェアリングから供給する予定とのことでした。現状は5か所ですが、今後はソーラーシェアリングの場所を増やしていく予定とのことでした。

野菜やお米の栽培で太陽光を遮って大丈夫かという質問に対しては、太陽の光を遮るのは2割程度なので、作物への影響はほぼ無いとのことでした。

【所感】

小山田社長がこの施設をやろうとしたきっかけは東日本大震災がきっかけだったとのことでした。福島原子力発電所（以降「原発」）が大変なことになり、日本のエネルギーは原発に頼ってはいけなさと実感したとのことでした。そして、再生可能エネルギーで需要が全てまかなえる形を示すことができれば、原発が要らないということが実践で示すことができるとの思いに至ったそうです。また、地元の産業である農業が廃れるということは、地域が廃れるとの考えから農業にもテコ入れが必要だと感じていたとのことでした。農業とエネルギーの問題を同時に解決できる方法の1つが、ソーラーシェアリングという選択肢となったとのことでした。未来の子どもに原発のない世の中を残していきたいと心に強く思っていることが伝わってきました。

太陽光発電施設、農業、カフェ、各種の講演を引き受けたりと精力的に活動している原動

力を聞いたところ、未来の子どもたちにきちんとした社会を手渡したい。という答えが返ってきました。小山田社長は郵便局の職員から転職をして、今の事業を始めました。ゼロからのスタートで様々な困難があったことは小山田社長本人が出している著書「食エネ自給のまちづくり」(田園都市出版社)からも読み取れます。誰もやらないなら、自分からやってみる。それも自分のためではなく、未来の子どもたちのためというところに本当に感心しました。再生可能エネルギーと農業のどちらも喫緊の課題です。どちらにも効果があるソーラーシェアリングは有効な手段の1つだと感じました。

調査日	2022年10月12日(水)
場所	《座間市役所 議会事務局》 PM2:30~4:00 担当: いけむら 様
内容	生活困窮者支援の取組について

1日目

【視察②】14:30~16:00

断らない相談体制の構築

【視察先】
座間市役所

【概要】

座間市は人口約13万人、面積17.57キロ平米の市で、面積は、清須市や知立市と同程度、人口は刈谷市と同じ規模です。座間市では生活相談など断らない相談体制を構築しております。2022年6月に朝日新聞出版から「誰も断らない こちら神奈川県座間市生活援護課」という本が出版されています。座間市の生活援護課は 経理係、生活保護係、自立サポート担当の3つの係からなり、自立サポート担当は市職員が2名、で、あとは会計年度職員として、相談支援員2名、就労支援員2名、住宅確保給付金担当者1名、こども健全育成員1名となっています。生活援護課の窓口はすべて正規もしくは会計年度の職員です。これはなぜか、と聞いたら「ここは市にとってもっとも重要な課題を受ける場所ですから、職員が受けるのは当然です」という答えでした。自立サポート担当が行なっているのは、自立サポート、就労支援、就労準備支援、ひきこもりサポート、アウトリーチ支援、家計改善支援、一時生活支援、と子ども学習生活支援です。岡崎市もほぼ同様の事業が行われています。座間市の強みは社会的資源が市内にたくさん存在し、コンビネーションを組んでいるところです。たとえば住宅のない人に住宅を提供できるNPOがあったり、就労支援の専門のNPOがあったり、認定事業所の開拓をしてくれる事業者があったりと職員をサポートしてくれています。そして 市庁内19課で包括的支援体制ワーキンググループを作り18の事業所や団体と支援調整会議を行っています。



【所感】

座間市の相談体制で特徴的なことは窓口業務を委託ではなく、正規の職員が担当しているということです。しかも、そこでの業務が「市にとってもっとも重要な課題を受ける場所ですから、職員が受けるのは当然です」と座間市の職員さんが言っているのが印象的でした。ここに市としての体制と職員の強いこだわりを感じます。概要で記載しているように書籍が出されるくらい特筆すべきことだと考えます。また、相談を受ける窓口だけではなく、他の窓口に相談に来た方が困っていないかを気づくために「きづいてつなぐ相談チャート」というのを配布しています。来庁された方の様子で、どの窓口にいても困りごとに気づく体制ができ、「市役所に来れば何とかなる！」身近で相談のしやすい窓口をと生活援護課が職員に呼びかけているそうです。ここにも本当に困っている方を助けてあげたいという気持ちが伝わってきます。一人でも多くの方を助けてあげたい、支援につなげたい、そのためにまさに全庁体制で受け入れていることがとても印象的でした。

調査日	2022 年 10 月 13 日（木）
場所	《東村山市役所 議会事務局》 10：30～11：30 担当： オザワ 様
内容	議会報告会

2 日目

【視察③】 10：30～11：30
議会が行う議会報告会について

【視察先】
東村山市役所

【概要】

東村山市は人口約 15 万人、面積 17・14 キロ平米の市で、面積は、清須市や知立市と同程度、人口は刈谷市と同じ規模です。市の鳥はハクセキレイで岡崎市と同じです。

東村山市では議会報告会を年 4 回開催しています。特徴としては議会基本条例第 5 条で年 4 回開催することを規定しているという点です。定例会のあとの 5 月、8 月、11 月、2 月に議会報告会を開催しています。運営は全議員で行う。所管は広報公聴委員会ということ。内容は定例会の概要に関する報告。議会活動、市政に関する報告及び意見交換など。時間は 2 時間で前半は報告、後半は意見交換等。その場で出た意見は課題・成果等を議長に報告し、さらには市議会ホームページなどで公表しています。



【所感】

印象的だったのは議員の方々が多くの作業をこなしていたことです。議会報告会のチラシを駅前で配布したり、コロナ禍でオンラインの開催になった際も議員の方々が機械を調達したり、設定するなど、議会報告会への準備をしていました。どのようにしたら多くの市民の方が参加できるのか？を常に考えてトライ＆エラーを繰り返しています。自前で作る議会報告がされていることがとても印象的でした。

開かれた議会を実現するには議会報告会は有効な方法の1つだと感じました。日本共産党岡崎市議団は毎年議長に対し、「市政報告会」の開催を要望しています

日本共産党岡崎市議団

中根善明